

科目名	成人・老年看護方法Ⅰ Adult & Gerontological Nursing Ⅰ		担当教員 (研究室番号)	長谷川智之(302) 岡根利津(308) 玉田章(307)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	治療を必要とする急性期にある患者について、患者の状態をアセスメントするために必要な知識を修得し、その知識に基づいて看護実践につなげる。											
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)										
到達 目標	1. 呼吸機能に障害のある患者の治療(人工呼吸療法・胸腔ドレナージ)およびその看護について説明することができる。 2. 循環機能に障害のある患者の治療(PCI・CABG)およびその看護について説明することができる。 3. くも膜下出血を生じた患者と家族への看護について説明することができる。 4. 直腸がんで手術を受けた患者と家族への看護について説明することができる。 5. 周術期にある患者の術後合併症および予防のための看護について説明することができる。 6. クリティカルケアを必要とする患者の生体侵襲や集中治療に伴う影響と看護、および患者の家族への影響とその看護について説明することができる。											
成績評価方法 (基準)	定期試験(60%)、グループワークの成果および課題レポート(40%)を合計して科目可否の評価とする。 定期試験は学習項目にあげた成人看護学の急性期領域を出題範囲とし、看護師国家試験に準じた形式(多肢選択等)の筆記試験とする。											
再試験の有無と 基準等	定期試験を受験した不合格者には再試験を実施する。再試験は筆記試験のみとする。											
教科書	ナースিং・グラフィカEX 疾患と看護〔1〕～〔3〕、〔5〕(メディカ出版) ナースিং・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護(メディカ出版)											
参考書等	適宜、授業時間中に提示する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	成人看護学の学習範囲は急性期領域だけ取り上げたとしてもとても広いです。そのため、授業で学習する内容は限られた一部分となります。授業での学習はもちろんのこと、それ以外の内容も積極的に自分で学習をすすめる必要があるために事前課題と自己学習課題を提示します。 「演習」では、グループワークを取り入れた授業を行います。学生個々の事前学習に基づき、授業中に提示する課題について、看護において必要な思考力を高める目的でディスカッションをしてもらいます。グループあるいは履修者全体で自分の考えを積極的に述べることを期待しています。 また、各回で提出する課題レポートは、返却後に「学習ノート」として1冊にまとめて、成人看護方法Ⅳや成人看護学実習Ⅰにも活用できるようにしておくことを推奨します。											
備考	成人看護学概論を修得していないと履修できない。 成人・老年看護方法Ⅴ、Ⅵの先修条件となっている。											
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法
1回	呼吸機能障害がある患者の看護					呼吸機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、グループワークを通して学ぶ。 ・治療(人工呼吸療法、胸腔ドレナージ)の特徴とその看護について学ぶ。					岡根	講義 演習
2回	循環機能障害がある患者の看護					循環機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、事前学習をもとにグループワークを通して学ぶ。 ・急性冠症候群の治療の特徴とその看護について学ぶ。					岡根	講義 演習
3回	脳・神経機能障害がある患者の看護					中枢神経機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、事前学習をもとにグループワークを通して学ぶ。 ・くも膜下出血の治療の特徴とその看護について学ぶ。					長谷川	講義 演習
4回	消化機能障害がある患者の看護					消化機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、事前学習をもとにグループワークを通して学ぶ。 ・直腸がんで手術を受けた患者と家族への看護について学ぶ。					長谷川	講義 演習
5回	周術期看護					外科的治療を受ける患者の看護において、術後合併症予防における看護についてグループワークを通して学ぶ。 (合併症①に関する発表と解説)					長谷川	講義 演習
6回	周術期看護					外科的治療を受ける患者の看護において、術後合併症予防における看護についてグループワークを通して学ぶ。 (合併症②に関する発表と解説)					長谷川	講義 演習
7回	クリティカルケア看護					クリティカルケアを必要とする患者の特徴(生体侵襲の影響や集中治療に伴う影響など)、および患者の家族の特徴を理解し、その看護についてグループワークを通して学ぶ。 (生体侵襲の影響に関する発表と解説)					岡根	講義 演習
8回	クリティカルケア看護					クリティカルケアを必要とする患者の特徴(生体侵襲の影響や集中治療に伴う影響など)、および患者の家族の特徴を理解し、その看護についてグループワークを通して学ぶ。 (集中治療に伴う影響に関する発表と解説)					岡根	講義 演習

学 習 課 題	
演習は、事前課題に対して調べてきたことを基にグループワークで話し合う。毎回の授業で呈示される事前課題について「課題レポート」としてまとめて持参する。以下に課題の概要を記載するが、毎回の授業終了時に次の課題の詳細を提示する。 課題に対する内容以外にも関連する事柄や疑問が生じた内容についても調べて、十分な自己学習がされたレポートを期待する。課題およびルーブリック評価表については、課題提示時に「WebClass」にアップロードする。各課題は、ルーブリック評価表における評価項目に沿って評価する。	
1回目課題（事前）：成人看護学概論の資料を読み直す。	
2回目課題（事前）：循環器の構造と機能、急性冠症候群についての課題レポート	【評価対象】
3回目課題（事前）：くも膜下出血の病態、治療、看護についての課題レポート	【評価対象】
4回目課題（事前）：腹会陰式直腸切断術後の看護についての課題レポート	【評価対象】
5回目課題（事前）：4回目の講義終了後に提示されたグループワークのテーマについて調べる。 （事後）：グループワークの成果	【評価対象】
6回目課題（事前）：4回目の講義終了後に提示されたグループワークのテーマについて調べる。 （事後）：グループワークの成果	【評価対象】
7回目課題（事前）：6回目の講義終了後に提示されたグループワークのテーマについて調べる。 （事後）：グループワークの成果	【評価対象】
8回目課題（事前）：6回目の講義終了後に提示されたグループワークのテーマについて調べる。 （事後）：グループワークの成果	【評価対象】

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護師として実務経験、特に集中治療室、周手術期看護の経験がある。また、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義および演習を行う。